

日 本 独 文 学 会 第 67 回 総 会
春 季 研 究 発 表 会

2013 年 5 月 25 日(土)26 日(日) 第 1

日 午前 10 時より

第 2 日 午前 10 時より

会場 東京外国語大学府中キャンパス
(研究講義棟)

☎183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

Tel.:042-330-5226 (ドイツ語研究室)

e-mail: tagung2013tufs@jgg.jp

参加費:1500 円(学生、常勤職のない会員は 1000 円)

日 本 独 文 学 会

☎170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax 03-5950-1147

メールフォーム:<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第 1 日 5 月 25 日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A 会場(115 教室)

山口 裕之

総 会 (10:05~11:30)

A 会場(115 教室)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 会長挨拶 | 室井 禎之 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 初見 基 |
| 4. 渉外委員会報告 | 清野 智昭 |
| 5. 会計報告 | 藤井 明彦 |
| 6. 編集委員会報告 | 田村 和彦 |
| 7. 企画報告 | 浜崎 桂子 |
| 8. 広報委員会報告 | 高田 博行 |
| 9. データベース委員会報告 | 河崎 靖 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 増本 浩子 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 田中 慎 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 岡本 順治 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 宮田 真治 |
| 15. ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会報告 | 太田 達也 |
| 16. ドイツ語教育部会報告 | 高橋 秀彰 |
| 17. 支部報告 | |

- 議事
1. 2012 年度決算書および 2013 年度予算案について
 2. 会員の互選による理事の囑任について
 3. 支部および部会選出理事の囑任について
 4. 監事の囑任について
 5. その他

会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)

A 会場(115 教室)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会(12:10~13:10)

A 会場(115 教室)

ドイツ語教育部会総会(13:10~14:00)

B会場(227 教室)

シンポジウム I (14:30~17:30)

A 会場(115 教室)

変容する「ヴァレンツ」 — 文法論と辞書論の接点を求めて

„Valenz“ in der Metamorphose: auf der Suche nach einer Schnittstelle zwischen Grammatik und Lexikon.

司会: 藤縄 康弘、清野 智昭 コメンテーター: 清野 智昭 反

1. 使役動詞の語彙的意味における使役性の考察
2. 移動動詞におけるヴァレンツの増減
3. 反使役としての bekommen + 過去分詞
4. 日本語動詞における語彙的意味と形態のミスマッチ — 「試合に出る」『シュートを外す』を例に—

青木 葉子
高橋 美穂
藤縄 康弘
今泉 心奈丁

シンポジウム II (14:30~17:30)

B 会場(227 教室)

コーパス利用に基づくドイツ語研究 — 幅広いデータ収集と頻度から見直す—

**Korpusbasierte Erforschung der deutschen Sprache.
- Überlegungen auf der Basis umfangreicher Datensammlung und Häufigkeit-**

司会: 恒川 元行

1. 形態と頻度 — コーパスから見た 2 格語尾の使い分け—
2. 辞書記述と頻度
3. 語結合分析と頻度 — 使役起動交替を例に—
4. 基本語彙と頻度 — 実践と課題—
5. 書くためのパラレルコーパス構築と頻度

今道 晴彦
黒田 廉
カン ミンギョン
大藪 正彦
阿部 一哉

口頭発表: ドイツ語教育(14:30~16:25)

C会場(226 教室)

司会:正木 晶子、Vincenzo Spagnolo

1. Was lernen Lernende vom Lehrerfeedback? - Empirische Untersuchung zur Wirkung verschiedener Korrekturverfahren auf die formale Korrektheit von Lernertexten Tatsuya Ohta
2. Plädoyer (und Projektvorstellung) für freie, multimediale DaF-Lehrwerke: Adaptable Open Textbook Sven Körber-Abe
3. 出会いと対話の場としてのドイツ語教育 — 試行錯誤と失敗体験を阻害しないために 濱野 英巳

口頭発表:文学 1(14:30~17:30)

D会場(108 教室)

司会:赤司 英一郎、明星 聖子

1. 歳一ヴェ・ヨンゾン『ヤーコプについての推測』における内的モノログのダイアログ性 金 志
2. ゲーテ『ファウスト第 2 部』の「ファウストのテルツィーネ詩行による独白」を読む — スイス体験と詩作 — 土谷 真理子
3. 歴史は小説になることなく文学的たりうるか — 18 世紀小説理論の観点からみたシラーの「歴史」と「物語」 — 北原 寛子
4. 境界と陶醉 — 美と政治の狭間に立つエルンスト・ユンガー — 長谷川 晴生
5. マックス・ヴェーバー「音楽社会学」からトーマス・マン『ファウスト博士』へ 山室 信高

口頭発表:文学 2(14:30~17:05)

E会場(107 教室)

司会:宮田眞治、Stefan Keppler-Tasaki

1. 亨デルセン『人魚姫』における脚部障碍の表象 — フケー『ウン ディーネ』との比較 中丸 禎
2. デーブリンと死者の国 — 『マナス』について 時田 郁子
3. Erstarren der Vergangenheit und die Zukunft im Modus des Möglichen: Zeitlichkeit der DDR-Erinnerung bei Angela Krauß und Julia Schoch Asako Miyazaki
4. Kurdische Exilliteratur im deutschsprachigen Kontext Theresa Specht

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査報告

— 教育機関を対象とするアンケート結果から — (16:00~17:30)

F会場(114 教室)

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会 太田
達也、高岡 佑介、生駒 美喜、神谷 善弘、柴田 育子
Michael Schart、藤原 三枝子、星井 牧子、Marco Raindl、藁谷 郁美

(調査についてのポスターは、期間中を通じてF会場前に掲出されています)

ポスター発表(13:00~14:30)

G会場(113教室)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

Ein inhaltsorientierter Unterricht als Vorbereitung auf einen
Studienaufenthalt in Deutschland

Martina Gunske von Kölln

„Echte“ und „falsche“ Regionalkrimis - Beispiele aus dem Ruhrgebiet Oliver Mayer
ドイツ語話速の機能と習得に関する考察 村田 優子 日本人ドイツ語学習者のドイツ語音声における母音
/i//u//y/の無声化

安田 麗

—生成面からの観察—

役人フランツ・カフカと事故ネットワーク

横山 直

生

ブース発表 1(14:00~15:30)

H会場(106教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

Lesekompetenz und Lesekonzepte - Ein Vergleich zwischen
Leseverhalten und Lesestrategien bei japanischen Deutschlernenden

Yoshiko Nishide
Yutaka Takatsugi
Shinichi Sakamoto
Yoshinao Furukawa
Serina Kashiwagi

ブース発表 2(16:00～17:30)

H 会場(106 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

カフカ文学における異文化性とユダヤ性

林 崙 伸二

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表(14:30～17:30)

I 会場(105 教室)

懇 親 会 (18:00～20:00)

会場:東京外国語大学生協食堂

会費:**5000**円(学生、常勤職のない会員は**3000**円)

第 2 日 5 月 26 日(日)

シンポジウム III(10:00~13:00)

A 会場(115 教室)

生涯教育としてのドイツ語教育を考える — 高校、大学、卒業後を見据えたドイツ語教育 へ向けて—

Deutschlernen im lebenslangen Prozess - auf der Oberschule, an der Universität und nach der Universität -

司会:神谷 善弘、生駒 美喜

- | | |
|--|-------|
| 1. 生涯学習としてのドイツ語学習 —CEFRを参考にした制度設計 に向けて— | 境 一三 |
| 2. フランス語教育の高大接続・連携 | 山崎 吉朗 |
| 3. 中国語教育の高大接続・連携 | 藤井 達也 |
| 4. ドイツ語教育の高大接続・連携 | 吉村 創 |
| 5. 大学外・卒業後を視野に入れたドイツ語学習 | 清野 智昭 |

シンポジウム IV (10:00~13:00)

B会場(227 教室)

ドイツ語研究に今日的自律性はあるのか — 方法(論)をめぐる考察

Wohin mit der Autonomie der Deutschforschung? – Methodisch-methodologische Überlegungen

司会:小川 暁夫、コメンテーター:高橋 輝暁

- | | |
|---|-------|
| 1. 言語哲学とメディア言語学 —ドイツ語研究のための新たなリンク | 渡辺 学 |
| 2. ドイツ語「記述」文法の転回 — 類型論の観点から | 小川 暁夫 |
| 3. ドイツ意味理論と認知言語学の出会い —「エネルギー」としての 文法研究 | 宮下 博幸 |
| 4. 行為、言語、可視化 —『ザクセン法鑑』の挿絵から | 井出 万秀 |

口頭発表: 語学(10:00~12:35)

C会場(226 教室)

司会: 黒田 廉、時田 伊津子

1. **Koordination und Integration suprasegmentaler Merkmale im Japanischen bei deutschen Muttersprachlern**
2. 前置詞融合形に関する考察 —ドイツ・ルール地方の地域語を例
に—
3. ドイツ語辞典における「定義語彙」調査
4. 日独比較マルチモーダル分析 —説明場面に見られる問題提示の
手続き—

Yuki Asano

上村 昂史
山田 善
久 在間
進

白井 宏美

口頭発表: 文化・社会(10:00~11:55)

D会場(108 教室)

司会: 大宮 勘一郎、古澤 ゆう子

1. 「書籍学講座」における研究と教育 —マインツ大学の事例を中心
に—
2. 仮面と身体表象 —表現舞踊における仮面の解釈をめぐって—
3. イタリアとドイツの幸せな結婚? —『マーサの幸せレシピ』をめぐって—

竹岡 健一
照井 夕可里
木本 伸

口頭発表: 文学3(10:00~12:35)

E会場(107 教室)

司会: 寺尾 格、石田 雄一

1. 英雄譚における虚言の肯定性 —ジーフリトとトリスタンの比較を
通じて—
2. 『エネアス物語』から『トリスタン』へ —ミンネの可触性の問題
について—
3. ノイバー座の演劇改革とザクセン喜劇の受容をめぐって
4. G.ハウプトマンを巡るブラームとラインハルトの相克

田中 一嘉
渡邊 徳明
小林 英起子
鈴木 将史

ブース発表 3(11:30～13:00)

H 会場(106 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

携帯端末連携型教科書の作成と授業における運用について

川村 和
宏 松崎 裕
人 竹内 拓
史 熊谷 哲
哉 押領 司
史 生

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表(10:00～13:00)

I 会場(105 教室)

閉会の挨拶(13:00-13:05)

A 会場(115 教室)

成田 節

学会期間中, 上記のプログラムに加えて, 下記の展示が行われます。

- 書店・出版社等による各種展示(書籍展示会場:110, 111, 112 教室)